

茨木市立 中津小学校 茨木っ子グローイングアップ計画

平成30年10月作成

1

3年間の計画

	目標	平成29年度(2017年度)	平成30年度(2018年度)	平成31年度(2019年度)
中学校ブロック保幼小中連携	連携カリキュラムの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・連携カリキュラムの実践 ・連携担当者会議の開催 ・「いきいきスクール」の開催 ・学校事務の共同実施 ・3校合同研修の開催 ・合同授業研の開催 ・3校の土・日曜参観や研究授業の情報交換・各校からの参加 ・教材の交流 ・児童・生徒の交流 	<ul style="list-style-type: none"> ・連携カリキュラムの検証改善 ・連携担当者会議の開催 ・「いきいきスクール」の開催 ・学校事務の共同実施 ・3校合同研修の開催 ・合同授業研の開催 ・3校の土曜・日曜参観や研究授業の情報交換・各校からの参加 ・児童・生徒の交流 ・各校のとりくみの交流 	<ul style="list-style-type: none"> ・連携カリキュラムの総括 ・連携担当者会議の開催 ・「いきいきスクール」の開催 ・学校事務の共同実施 ・3校合同研修の開催 ・合同授業研の開催 ・3校の土曜・日曜参観や研究授業の情報交換・各校からの参加 ・児童・生徒の交流
確かな学力の育成	確かな学力をつけ生きる力を育成する	<ul style="list-style-type: none"> ・グローイングアップ3か年計画の立案、実践 ・個に応じた指導の推進(学力・支援との連携) ・ステップアップタイムの見直し ・授業ルール掲示物の活用方法の検討 ・外国語活動の先行実施に向けたモジュール授業の研究 ・ICTを活用した授業の実践 ・読書活動や授業研究を通じ、読解力を育む教育の実践 	<ul style="list-style-type: none"> ・グローイングアップの3か年計画の実践、検証 ・個に応じた指導の実践・検証(学力・支援との連携) ・外国語活動の先行実施によるモジュール授業の実施、検証 ・ICTを活用した授業の実践 ・読書活動や授業研究を通じ、読解力を育む教育の実践 	<ul style="list-style-type: none"> ・グローイングアップ3か年計画の総括 ・個に応じた指導の実践、拡充(学力・支援との連携) ・外国語活動の完全実施に向けた授業研究、実施(モジュール授業も含む) ・ICTを活用した授業の実践 ・読書活動や授業研究を通じ、読解力を育む教育の実践
豊かな人間性を育む	人権教育を通じて、お互いを認め合い、人権を尊重する心を養う	<ul style="list-style-type: none"> ・個に応じたインクルーシブ教育の研究、推進 ・発達段階に応じ、系統立てられた人権学習の実践、検証 ・自尊感情、有用感を高める教育の研究 ・全学年、平和学習を通じて戦争の恐ろしさや悲惨さを学ぶ ・集団づくり研修の実施 ・人権教育の研究推進のための校内研修の実施 ・地域・家庭との連携の推進 ・道徳教育の研究・実践 ・読み聞かせや本に触れる時間を確保し、幅広い考え方や視野を広げる機会を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個に応じたインクルーシブ教育の実践、検証 ・発達段階に応じ、系統立てられた人権学習の実践、発展 ・自尊感情、有用感を高める教育の研究、実践、検証 ・全学年、平和学習を通じて戦争の恐ろしさや悲惨さを学ぶ ・集団づくり研修の実施 ・人権教育の研究推進のための校内研修の実施 ・地域・家庭との連携の推進 ・道徳教育の実践と研究・検証 ・読み聞かせや本に触れる時間を確保し、幅広い考え方や視野を広げる機会を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個に応じたインクルーシブ教育の修正・拡充 ・発達段階に応じ系統立てられた人権学習の実践、継承、 ・自尊感情、有用感を高める教育の研究、拡充 ・全学年、平和学習を通じて戦争の恐ろしさや悲惨さを学ぶ ・集団づくり研修の実施 ・人権教育の研究推進のための校内研修の実施 ・地域・家庭との連携の推進 ・道徳教育の研究・実践 ・読み聞かせや本に触れる時間を確保し、幅広い考え方や視野を広げる機会を持つ。
健康・体力の増進	運動に親しむ心を育てる	<ul style="list-style-type: none"> ・体力向上プロジェクト研究授業の実施・検証 ・茨木っ子運動の推進 ・年間計画による体育授業の実施・検証 ・体力テストの活用 ・児童による行事の企画運営 ・食育の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・体力向上プロジェクト研究授業を基盤とした授業の推進 ・茨木っ子運動の推進 ・年間計画による体育授業の実施・検証 ・体力テストの活用 ・児童による行事の企画運営 ・食育の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・体力向上プロジェクト研究授業を基盤とした授業の推進 ・茨木っ子運動の推進 ・年間計画による体育授業の実施・検証 ・体力テストの活用 ・児童による行事の企画運営 ・食育の実施
支援教育の充実				

2

今年度の結果と取組みについて

(1) 全国学力・学習状況調査

○●国語●○

国語A

(領域ごと)

- ① 話すこと・聞くこと
概ね良好な結果であった
- ② 書くこと
良好な結果であった
- ③ 読むこと
良好な結果であった

④ 言語事項

概ね良好な結果であった

(問題形式)

- ① 選択式
概ね良好な結果であった
- ② 短答式
概ね良好な結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・正答率の高かった設問
*慣用句の意味と使い方として適切なものを選択する
- ・正答率の低かった設問
*文の中で漢字を使う (しょう毒)
- ・無解答率の高かった設問
*文の中で漢字を使う (しょう毒)

国語B

(領域ごと)

- ① 話すこと・聞くこと
概ね良好な結果であった
- ② 書くこと
概ね良好な結果であった
- ③ 読むこと
概ね良好な結果であった

(問題形式)

- ① 選択式
概ね良好な結果であった
- ② 記述式
概ね良好な結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・正答率の高かった設問
*【話し合いの様子の一部】における発言者の意図として、適切なものを選択する
- ・正答率の低かった設問
*話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる
- ・無解答率の高かった設問
*目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む

【分析】

- ・国語 AB 共に、選択式問題は良好。
- ・国語 A 「書くこと」「読むこと」は概ね良好であったが、「話すこと、聞くこと」「言語事項」については課題がある。
- ・国語 B の記述式問題については課題がある。特に、自分の考えを表現することが難しい児童が多いようである。
- ・無解答率の高かった設問については、言葉や文を書くことに対する苦手意識も働いているのではないかと。

○●算数●○

算数A

(領域ごと)

- ① 数と計算
概ね良好な結果であった
- ② 量と測定
概ね良好な結果であった
- ③ 図形
概ね良好な結果であった
- ④ 数量関係
概ね良好な結果であった

(問題形式)

- ① 選択式
概ね良好な結果であった
- ② 短答式
良好な結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・正答率の高かった設問
* 除法で表すことができる二つの数量の関係を理解している
- ・正答率の低かった設問
* 円周率を求める式として正しいものを選ぶ
- ・無解答率の高かった設問
* 円周率を求める式として正しいものを選ぶ

算数B

(領域ごと)

- ① 数と計算
概ね良好な結果であった
- ② 量と測定
概ね良好な結果であった
- ③ 図形
概ね良好な結果であった
- ④ 数量関係
概ね良好な結果であった

(問題形式)

- ① 選択式
良好な結果であった
- ② 短答式
概ね良好な結果であった
- ③ 記述式
概ね良好な結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・正答率の高かった設問
* 4色を順に繰り返してつなげ、輪かざり1本を作ったときの、30個目の折り紙の輪の色を選ぶ
- ・正答率の低かった設問
* 1回の玉入れゲームの時間を3分に最も近い時間にするための玉を投げる時間を、表に整理して求める
- ・無解答率の高かった設問
* メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、それを記述できる

【分析】

- ・算数A、算数B共に、良好な結果である。
- ・算数Aについては、日々の学習の中で基礎的な計算問題の練習を積み重ねた成果が出ているのではないかと。
- ・算数A、算数B共に無解答率が高い設問については、与えられている情報を分析する力が必要であると思われる。

○●理科●○

(領域ごと)

- ①物質 概ね良好な結果であった
- ②エネルギー 良好な結果であった
- ③生命 概ね良好な結果であった
- ④地球 良好な結果であった

(問題形式)

- ①選択式 概ね良好な結果であった
- ②短答式 概ね良好な結果であった
- ③記述式 良好な結果であった

(無解答率) 概ね良好な結果であった

(その他)

・正答率の高かった設問

*ろ過後の溶液に砂が混じっている状況に着目しながら、誤った操作に気付き、適切に操作する方法を選ぶ

・正答率の低かった設問

*野鳥のひなの様子を観察するための適切な方法を選ぶ

・無解答率の高かった設問

*食塩水を熱したときの食塩の蒸発について、実験を通して導きだす結論を書く

【分析】

- ・全国を上回る成績であった
- ・記述式の解答率が高い。

- ・無解答率の高かった設問は、誤った文章を正しく直すものであるが、この文章の誤り自体に気づくことが難しかったと考えられる。また、誤っているとわかりつつも、どう正して良いのかわからなかった、との可能性が考えられる。

- ・無解答率が全国と同じであった点は課題が残る。
- ・「野鳥のひなの様子を観察するための適切な方法」を選ぶ設問の正答率が低かったが、設問が児童の実生活に即していないという点が考えられる。しかし、想像力を働かせ課題解決に向かう力については課題が残る。

○●経年比較●○

【全体的な傾向についての分析】

- 平均正答率は、常に全国平均よりよい水準を上回っている。
(ここ数年減少傾向がみられるが) 10年の幅で見るとやや上昇している。日頃の指導の成果として、もうしばらく現在の取組みを検証しながら進めていく。
- 国語Aの正答率が、年によって安定しない。積み重ねが必要な基礎基本の徹底習熟をどの学年でも企図しなければなら

【学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析】

- 低位層は、10年の幅で見ると、やや減少傾向はみられ、常に全国平均よりは下まわっている。現在取り組んでいる内容は、ボトムアップには効果的であると考えられる。
- 高位層は、全国平均を下回る結果がここ数年みられ、教科別にみても、やや減少傾向がみられる。高位層を引き上げる取組みを付け加える必要がある。

○●取組み●○

学力向上に関する取組み

<方針>

- 学校教育目標「夢とできる喜びを分かち合い、瞳きらめく中津っ子」に設定
- 学力向上推進目標「確かな学力をつけ、生きる力を育成する」と年間計画の作成
- 校内研究推進体制づくり
- 支援を要する児童への支援内容の検討と実施
- 習熟度別少人数授業実施と個に応じた教育の充実(通級指導の実施や学習サポーター等の活用)
- 集中して静かに聞く力と集中して取り組む力の育成
- 書く力を高めるノート作りやノート評価の充実
- 自分の意見や考えの根拠、実験した結果と考察などを自分の文章でまとめる活動の増加
- 言語活動を大切にし、定着すべき基礎言語を獲得させる取組みの実施
- 課題のある子どもへの学習内容定着のための補習の充実(20分休み・昼休み・放課後・長期休業中)
- 家庭との連携を深め家庭学習(宿題)を徹底させる取組みの実施
- それぞれの学年の基礎基本を明らかにし確実に定着させ、学力低位層を減少させる
- 教職員の授業力向上(分かりやすく、学びたいと思わせる授業の実施)
- 学び合い、高め合える学級集団づくり
- もっと学びたい、知りたいと思うような、学習意欲を高める授業づくり
- 聞き取った話の内容を文章でまとめたり、根拠を明らかにして自分の意見を文章にするなど、記述式学習の増加
- 計画を自分で立てて学ぶなどの学習機会の増加

<検証>

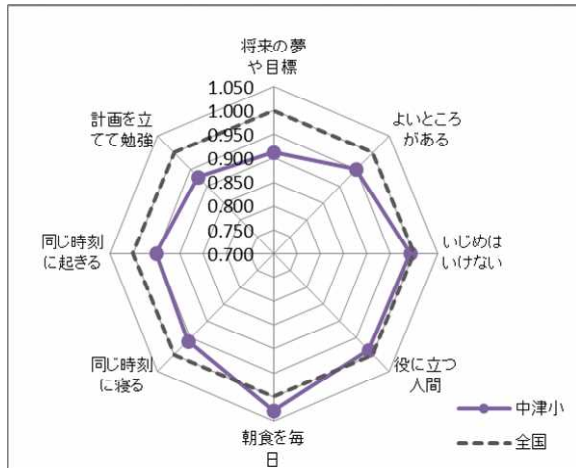
- 全国学力学習状況調査の分析とグローイングアップ計画の修正補完
- 算数診断テストと漢字テストの実施、分析
- 学校教育自己診断実施と分析結果の共有
- 授業アンケートの集計
- ノートのまとめ方の紹介と交流
- 漢字だけでなく、基礎言語定着を図る小テストの実施と分析(数学的用語)
- 大阪府作成の力だめしプリントの活用

<具体策>

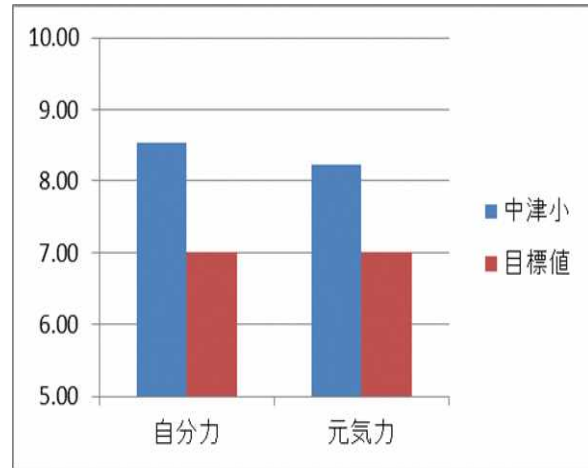
- 朝学習の内容は漢字練習に加えてミニ作文に取り組むなど、その内容を拡充していく
- 図書の日や休み時間の読書から興味と習慣化で読書量の拡充をめざす
- 基礎的内容の定着が図れるよう、授業内容や時間を工夫する(繰り返し計算等)
- 算数の応用力をさらに伸ばすため、問題解決学習と読解力の育成に努める
- 高位層の児童には別プリント等を用意し、意欲的に問題を解かせるなど工夫する
- 声を出す取組みを大切に、国語力を育てていく
- 基礎基本の学習の徹底で、低位層の更なる引き上げを図る
- 学力に課題のある児童について、放課後指導や長期休暇中の学習支援を展開する
- 問題に向う時に、途中であきらめず最後まで粘り強く取り組むよう声かけをする(無解答率減少のため)
- 豊かな心を育むための道徳研究を進める
- 研究授業や各種研修を通して、児童の聞く力や集中力を高める教員の授業力向上を図る
- 学校だよりや中津っ子だよりなどで学校の取組みを発信し家庭の教育力を向上させる
- 学習環境の整備から集中できる環境づくりをめざす(黒板周りの掲示物を隠すなど)
- 学習サポーターの人的配置の継続
- 毎日プリントの取組み実施
- 作文作りや振り返りの記入を毎日行い、文章を書く力を伸ばす指導の拡充
- 朝の読み聞かせ(低学年)や図書委員の読み聞かせ活動の実施
- 学級内で児童が理解できたことを教え合う取組み(高位層が低位層に教える活動)
- ノートにまとめた意見等を学級で紹介し評価し合う
- 板書を視写する以外の自由度の高いノート作りに取り組む
- 国語的、数学的、科学的言語の定着を図る掲示物の作成と活用
- 低位層の子どもにあった家庭学習の方法(復習や短期間での繰り返し練習)を提案し、家庭の協力を求め、学力を向上させる
- 府教育センターの学習コンテンツを活用する
- タブレットを活用し、個に応じた学習量で復習等に取り組ませる
- 記述式問題や理由を説明する文章問題などを意識的に取り入れる
- 聞いたり読んだりした内容についての自分の意見をまとめる機会を多くする

○●子どもたちに育みたい力●○

5つの力
全国平均との比較



5つの力
目標値の比較



今年度は質問紙項目が大幅に変更になったため、5つの力をこれまでどおり算出することができませんでした。そのため、全国平均との比較(レーダーチャート)は8項目、目標値との比較(棒グラフ)は、3項目とも実施した『自分力』と『元気力』のみとなっています。

分析

<ゆめ力>

- ・将来の夢や目標を持っていると肯定的に言える子どもが少ない

<自分力>

- ・自分力は高く、一人一人がしっかりとした考えをもっている
- ・目標値も満たしており、良好な結果であるといえる
- ・役に立つ人間の項目が平均的である。学校での取組みの効果がでている
- ・よいところがあるの項目が低いことから、自分に自信のある子どもが少ない

<学び力>

- ・計画を立てて、自分の生活を組み立てることが苦手である

<元気力>

- ・元気力も目標値より高い。日常の学校生活からも元気な様子うかがえる
- ・目標値を満たしており、行事などではもっている力を発揮することができる
- ・朝食が毎日食べている子どもが多いが、就寝・起床時刻が安定していない

取組み

<ゆめ力>

- ・今後も出前授業や外部人材を活用するとともに、日常のきめ細かで丁寧な取組みを続けていく
- ・習熟度別少人数授業を導入していることが、きめ細やかな学習指導と支援につながっている
- ・国語力を高める授業の展開と、言語活動の質の向上を図る取組みの工夫と実施
(学級や学年・学校全体の掲示板等に、国語力を高めるような掲示や、詩等の紹介をする)
- ・算数、国語学習の有用性を知らせ、学習を前向きにとらえる事の大切さに気付かせる
- ・将来への展望を持てるようキャリア教育の充実を図る
- ・保護者やスポーツ選手など、子どもの関心が高い人を招聘し、仕事の話や聴く機会を多く持つ

<自分力>

- ・基本的な生活習慣を身に付けるため、家庭との丁寧な連携を行う
- ・学校だよりや中津っ子だよりで基本的な生活習慣の啓発をすすめる
- ・説話だけではなく、心に響くような指導(読み物資料や人権学習内容)を通して、心を育てる
- ・きまりを守ることの大切さについて、学校教育全般を通して丁寧な指導を行う
- ・学級懇談会等で、保護者に児童の実態を伝え、家庭が学校とともに子どもを育てるという意識の共通化を図る
- ・いじめ防止の徹底を図るとともに、自分も他者も尊重する取組みを進める
- ・自分を振り返る取組みを設定する。(月目標の振り返りや課題に応じた取組み)
- ・保護者にも、きまりを守ることの大切さを啓発し、協力して進める

<つながり力>

- ・地域の人とつながることの大切さを児童が学ぶために、地域人材ゲストティチャーの活用や地域行事に積極的に参加するよう学校として支援していく
- ・友達の話や学級の中でしっかり受け止めて聞くことができる、学級集団づくりをさらに進める
- ・学習(総合等)を通して、人の役に立つことの素晴らしさを感じられるようにしていく
- ・グループ活動や、学級活動を通して、友達の話やしっかり聞き、ともに考えて取り組む態度を育てる
- ・お互いのよさが違いを認め合える仲間づくり、一人ひとりが自信を持てる場づくり、信頼しあえる学級づくりを大切にしたい日常の取組みを続けていく

<学び力>

- ・意欲的に学ぶ力を高め、「できた」「わかった」と実感できる授業の充実をすすめていく
- ・保護者と連携し、家庭学習を進める
- ・読書時間の確保に努めるとともに、図書館支援員を活用し、本に親しむ取組みを積極的にすすめる
- ・『ひろば読み』の取組みを、毎年実施する
- ・全学年での読み聞かせの取組みを今後も進めていく
- ・家庭学習の手引きの活用

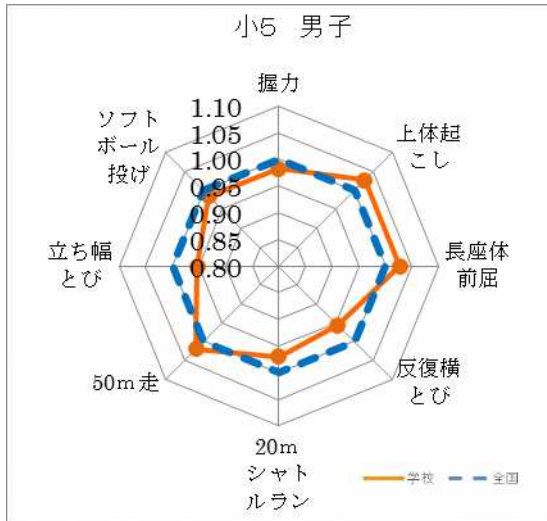
<元気力>

- ・生活習慣や運動習慣の大切さを学級指導や家庭科学習で伝えていく
- ・保健だよりや給食だよりで生活習慣の意識付けや家庭への啓発を行う
- ・学校医と連携し生活習慣の向上の取組みを進める
- ・食育の推進
- ・薬物乱用防止教室の開催

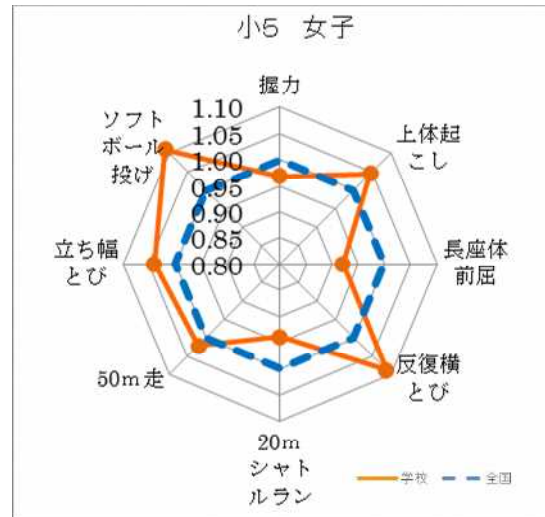
(2) 全国体力・運動能力、生活習慣調査

○●体力●○

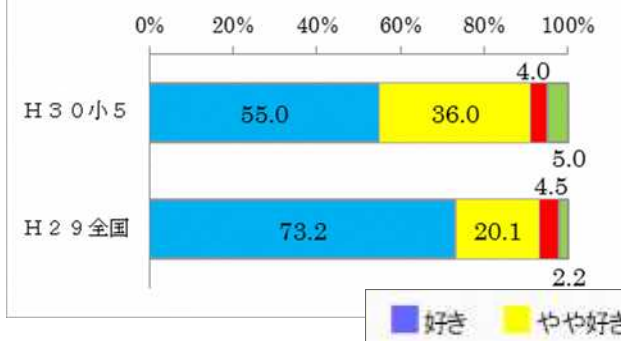
男子 (小5)



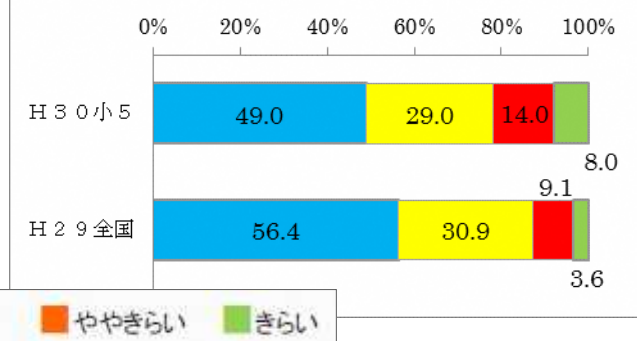
女子 (小5)



運動・スポーツが好きですか(小5男子)



運動・スポーツが好きですか(小5女子)



分析

- ・男子は種目によりばらつきはあるものの、女子の能力は概ね高い
- ・握力、シャトルランは男女とも全国平均より低い
- ・女子は長座体前屈に課題があり、体が硬いことが窺える
- ・運動、スポーツ好きな子が減っている

取組み

- ・鉄棒や登り棒などの握る運動を取り入れる
- ・ソフトボール等ボールを投げる機会を設け、投げ方の指導をする
- ・体育の授業の初めに茨木っ子運動や基本的運動を継続的に取り入れる
- ・「運動する楽しさを味わう事ができる授業」をめざし、系統立てられたカリキュラムを作成する
- ・校内マラソン大会の実施や、発達段階に応じたマラソンカードの活用等、目標をもった持久力を高める活動を進める
- ・教材や教具などの充実を図る
- ・縄跳びジャンピングボードの作成、修繕などを行う
- ・小中連携を通して、中学生による陸上競技指導を実施する
- ・体力テストを4・5・6年で実施し自己診断を行うとともに結果を分析し、体育の授業力向上を図る
- ・学級活動や委員会活動等で外遊びを奨励し、企画、実施する
- ・外部講師を招聘し、出前授業を行う
- ・子どもの実態を把握し、伸びを感じられるような指導を増やす
- ・体育の授業でのペアストレッチを取り入れる
- ・体力向上のため、運動場にラダーを4セット埋め込み活用する